

山は移居しあふ里緒を後世に示すもの
や、按ずるに山上に家墓を築く（此地はあ
ねば実録は水田といふ）けり、神は封をさ
し、林麓の田地を括（さ）し、や、吹浦村の神前に
おゐるに、月八日社家祝詞を上ぐ、流流庭上
より出て田樂を流し、生理飽海の郡民招
びに群集し、神札をさし、実録は見へ、傳
上代の月八日は、あつて山を焼くあふ
により、國事下知ありて、若禰を賽く。月日
を定例として、今に月八日年々神意を

まてし、あふり、又、ち、講堂はあふ、本地
佐を流し、流流又講堂のあふ、田樂の舞
あり、堂は二仏あり、弘院薬師なり、薬師を
大相忌神社の本地仏とし、弘院を月山神
社の本地仏とあふ、今さるものなり、玄印十二
月、公義より郡中へ、神位求の事、沙羅有
そ、昔より海山大相忌神社出羽國一言に成
あふ、事三代実録は明白なりと、さうし、予
史を見、るに、三代実録延喜式亦に、一、あ
事見、く、是、願、思、ち、あ、流、流、何、を、見、り、り、や